

5紀高介発第 350001 号

令和 6 年 3 月 1 5 日

紀の川市内

指定居宅介護支援事業所管理者 各位

指定居宅介護予防支援事業所管理者 各位

紀の川市長 岸本 健

(公 印 省 略)

令和 5 年度ケアプラン点検に係る点検結果について（講評）

平素は、介護保険行政にご理解とご尽力を賜り誠にありがとうございます。

このことについて、令和 5 年度ケアプラン点検を実施した結果、気づいたこと及びケアプランの作成にあたって参考にしていただきたい項目を留意点としてまとめましたので参考にしてください。

なお、令和 5 年度ケアプラン点検は、面接を行った事例以外は、提出していた所定の様式のための点検となっているため、十分に考慮できていないこともあります。その点は、ご理解くださいますようお願いいたします。

記

#### ケアプラン点検の概要

紀の川市内の居宅介護支援事業所の対象に事前にケアプラン点検（書面）を提出してもらい、当該ケアプランを作成した介護支援専門員に面談方式でケアプラン点検を行います。

#### ケアプラン点検の目的

ケアプランが「紀の川市ケアマネジメントに関する基本方針」を踏まえたものであって、「自立支援」に資する適切なものになっているかを介護支援専門員と一緒に点検確認しながら、介護支援専門員の「気づき」を促すとともに、介護支援専門員の質の向上を図ることを目的とします。

## ケアプラン点検（書面のみ）結果

…今年度から、各事業所から1事例ずつ提出のあったケアプラン等について、保険者のみではなく、作業療法士、理学療法士からのアドバイスも含めてケアプラン点検を行いました。

下記の留意点を参考に、必要に応じて再アセスメントを実施し、ケアプラン等の確認を行ってください。

## ケアプラン点検数

紀の川市内居宅介護支援事業所	点検件数	18件
紀の川市内居宅介護予防支援事業所	点検件数	1件

## 令和5年度の提出事例

- ①新規認定者      ②要介護2までの者  
③認定理由が骨折（術後）、筋力低下等回復の見込みがある者  
※認定理由が認知機能低下の場合は除きます

## 保険者からの助言及び留意点

### ○連携について

家庭環境や動作パターン、体力測定の数値などについて専門職と連携、情報の共有。

### ○検討事項について

- ・社会参加、他者交流についても検討していく。
- ・環境面へのアプローチ（福祉用具貸与、住宅改修など）だけでなく、身体機能面へのアプローチも明確にする。
- ・どのような場面、どのような動作のときにサービスが必要となるのか具体的にアセスメントする。

### ○目標設定について

- ・本人のできていること、できていないことを明確にする。
- ・ケアプラン上での短期目標や長期目標、課題が明確になることで、連携が図りやすくなる。
- ・目標設定をする時、原因や改善可能性も検討する。
- ・短期目標、長期目標を具体的ににする。

（例）安全に過ごすことができる

→何かサービスの利用を踏まえての安全なのか、サービスなしの安全なのか。安全とは何をもって安全なのか。

お風呂に入ることができる

→自宅での介助なしの入浴なのか、施設での入浴なのか。入浴動作のどの部分に困っているのか。

## ケアプラン点検（面談）結果

…兵庫県対人援助研究所主宰 稲松真人講師と介護支援専門員が一緒にケアプランが「自立支援」に資する適切なものになっているか、点検・確認を行いました。

## 面談方法

スーパービジョン方式

（対人援助者が指導者から教育を受ける過程であり、指導者（面接官）が対人援助者と面接を行い、継続的な訓練を通じて専門的スキルを向上させることを目的としています。）

## 令和5年度の面談実績

面談者：紀の川市内の事業所所属の介護支援専門員で自ら面談を希望した者（ケアプラン点検の参加人数 20 人）

面談回数：8 事業所（内 2 事業所は同事業所）×2 回＝16 回

検討事例数：14 事例

（1 回目面談と 2 回目面談で同事例を検討している場合があるため、面談回数より少なくなっています）

※事例提出者以外にも面談に同席された事業所

→5 事業所

（内、事業所内の居宅介護支援専門員全員が参加された事業所は 2 事業所）

## 講師からの指摘内容

○本人のできないことのみをアセスメントするのではなく、本人には何ができるのか、何に興味があるのかをアセスメントすることが大切。

○リスクマネジメントについて検討し、ケアプランに組み込む。

○アセスメントの主体は利用者である。

「この情報を知りたい」「このことを伝えたい」と思ってアセスメントに挑むと、利用者が本当に困っていること、思っていることを伝えることができない。

○医学・精神など、専門的なことを気軽に相談できるようなネットワークを形成することが重要。

## 介護支援専門員の気づき

○本人の身体的側面に注視しすぎていた。

本人の家族関係やグリーフケアについてもっと気に掛けるべきであった。

- 本人だけではなく、家族に対するアセスメントも大切である。
- サービスを動かすことによる影響やリスクについても検討しなければいけない。
- 管理者として、事例検討の手法を学ぶことができた。

#### 保険者から

介護給付担当は、現場で活躍されている主任介護支援専門員及び介護支援専門員の声 راもらい、様々な学びを得ています。

今年度も、面談によるケアプラン点検（スーパービジョン）を受けた介護支援専門員からは「気づきがあった」「支援の方向性がわかった」「次のケアプランに活かしたい」という様々な感想をいただきました。専門的な知識を有する講師と共に、ケアプラン作成のための丁寧な振り返りを行うことで、適切なプラン作成のための知識や手法を学び、レベルアップができたと考えています。

そういった点検方法について、より多くの事業所に体験いただきたいため、来年度はこれまで面談によるケアプラン点検（スーパービジョン）に参加したことのない事業所に声をかけさせていただきます。後日連絡させていただきますので、よろしくお願いします。

#### 紀の川市役所

福祉部 高齢介護課 介護保険班

担 当 磯部 山田 花岡

電 話 0 7 3 6 - 7 7 - 0 9 8 0

F A X 0 7 3 6 - 7 9 - 3 9 2 6